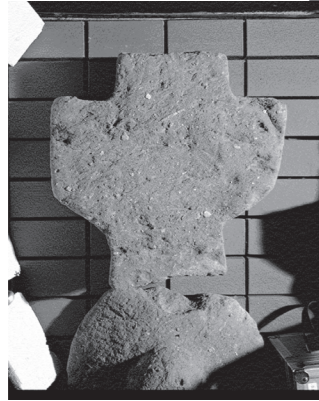


氷川町の文化財を巡ってみませんか？

氷川町には大野窟古墳以外にも多くの史跡や文化財が存在します。ここでその一部を紹介いたします。

姫ノ城古墳出土石製品

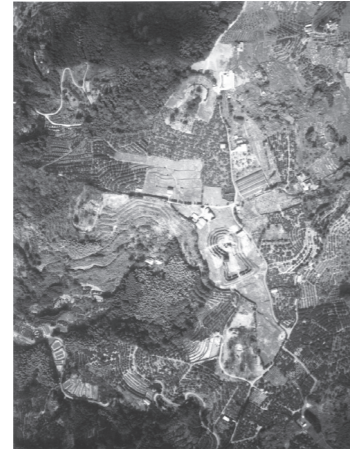
県指定



野津古墳群の中の一つである姫ノ城古墳からは、矢を入れる鞆、長い日傘である蓋の笠、盾の3種をかたどった石製品が出土しました。このような石製品で墳丘を飾る古墳は九州の古墳文化の一つの特徴であり、姫ノ城古墳は九州でも2番目に出土数が多いことで知られています。姫ノ城古墳と共にこれらの付随する石製品は学術的にも貴重な物となっています。

①野津古墳群

国指定



北から姫ノ城古墳・中ノ城古墳・端ノ城古墳・西に突き出した物見櫓古墳の4基の前方後円墳からなっています。古墳時代後期(6世紀)において、60~100mの古墳が密集して存在する例はほとんどなく、ここに葬られた人物は、当時もっとも勢力を持った火の君一族と考えられています。

⑦伊藤家住宅

県指定



コの字型の屋根をした「くど造り」の民家で、江戸末期 1852 年ごろに建築されたものです。一般的には屋根はカヤで葺きますが、伊藤家住宅は、身近な材料のヨシを利用して、屋根を葺いています。



⑤銅造阿弥陀如来立像

県指定

勝専坊に伝わる金銅仏であり、朝鮮半島の統一新羅時代(8世紀)の仏像の特徴を持っています。表面には上質な金メッキが施してあり、熊本県内に伝わる朝鮮半島の仏像の中で最も古く優れています。※現在は八代市立博物館に寄託されています。

⑥勝専坊庫裏

国登録



勝専坊は16世紀の中ごろ創建された浄土真宗本願寺派の寺院です。庫裏は明治から大正時代にかけて財をなした田河家の酒蔵を移築・改造した建物で、現在でも寺務所として使用されています。江戸時代後期にさかのぼると考えられ、また大正時代の座敷を持ち、郷土の歴史や近代の建築史を知るうえで、貴重なものとして評価されています。

④大王山古墳第3号

県指定



大王山古墳群は現在3基の古墳が確認されており、墳丘は変形していますが、直径30mの円墳と考えられます。石室は板状の割石が積まれており、中に長さ3m、幅0.95mの凝灰岩製の舟形石棺を納めています。昭和49年の保護施設工事の際に、石棺と板石積の間から直刀1振が出土しています。

③まちづくり情報銀行(旧井芹銀行)

国登録



井芹銀行は大正14年に建てられ、県下でも有数の大地主であった井芹康也氏を中心に営業されていました。鉄筋コンクリート造りの2階建てで、幾何学的パターンの装飾が外観にみられます。中央の銀行ではなく、地方の大地主によって設立された銀行であり、設計・施工も地元業者によって行われたという点で、特異な建物と言えます。

②まちづくり酒屋(旧井芹家住宅)

国登録



幕末の建築部分と明治初期の増改築部分があり、日本の家屋建築の変遷を知るうえで貴重な建築物です。現在は、まちづくり酒屋として、町づくり拠点としての役割を担っています。